

2013

広報

おばま 4



《表紙》

内外海小学校によるイノシシやシカ肉を使ったジビエ料理の調理体験が内外海公民館で行われました。

同校が実施している自然体験学習の一環で、参加した27人の児童たちは、県猟友会小浜支部と市職員の協力の下、焼き肉やメンチカツを調理、試食しました。

(3月6日)

【特集】 郷土の偉人を学ぶ

小浜は偉人の宝庫

わたしたちの郷土、若狭小浜は優れた風土と豊かな歴史文化に恵まれ、多くの偉人・先覚者を育んできました。

中でも、蘭学を志し解体新書を書いた杉田玄白と中川淳庵、数々の短歌を世に送り出した歌人・山川登美子、国学の道を極めた伴信友、勤皇の志士・梅田雲浜、沈勇・佐久間勉は日本の歴史上きわめて大きな仕事を成し得ました。そのほかにも小浜は偉人を多数輩出しており、小浜の地は偉人の宝庫といえます。

偉人について学び、後世に伝えていくことが大切

市では、市民活動団体などと協力し、毎年、市内各地で郷土の偉人を顕彰する式典やイベントを開催しています。わたしたちは、これらの偉大な先人が郷土の人であることを誇りにするとともに、功績を称え、顕彰することが大切です。

また、その人となりを学ぶことで、ふるさと文化の向上と郷土に愛着を感じ、誇りの持てるまちづくりを推進し、後世に語り継いでいくことが大切です。

特集

後世に伝えるために―

郷土の偉人を学ぶ

皆さんは郷土の偉人をご存じでしょうか。小浜市には数多くの偉人が存在します。わたしたちは、郷土への誇りと愛着を育むために、先人たちの功績を学び、後世に伝えていかなければなりません。

今月号では、郷土の偉人の功績や人となりを学ぶとともに、文化の伝承には何が必要なのか考えます。

■問い合わせ 文化課 ☎内線 445

市内28箇所に看板を設置

平成15年に、偉人にゆかりのある地に、その功績を記した看板を設置しました。これは、市民だけでなく、市外から訪れる人たちにも小浜の歴史と文化を広く知ってもらうために設置したもので、現在、市内の神社仏閣や公園など28箇所に設置しています。ぜひお立ち寄りください。（設置場所について、詳細はお問い合わせください）



若狭高校に設置された小野鶴山・西依墨山の看板

ともに儒学者として藩士の教育にあたりました。墨山を教授として1774年に開校した藩校・順造館の正門が、1980年に若狭高校に移築されました

看板は、リレー形式で次の偉人とそのゆかりの地を案内しています。いろんな箇所を巡ることができますよ。



文化課 橋本主事

山川登美子記念館

※お気軽にご来館ください

■問い合わせ ☎52・3221

山川登美子の生家が「山川登美子記念館」として平成19年4月に開館。記念館には生前の登美子の愛用品や歌稿などさまざまな品が展示されており、「登美子終焉の間」も公開されています。

また、登美子の作品や人生を紹介する企画展を随時開催しています。ぜひお越し下さい。

【開館時間】 9時～17時（入館は16時30分まで）

【観覧料】 大人…300円、高校・大学生…200円（中学生以下は無料）

※団体20人以上 大人…250円、高校・中学校…150円

【休館日】 毎週火曜日、年末年始12月29日～1月3日



■山川 登美子

やまかわ とみこ

1879年～1909年



現在の千種一丁目、旧小浜藩士山川家に生まれました。大阪・梅花女学校で学ぶころから与謝野鉄幹に師事し、雑誌「明星」に投稿。大阪の鳳晶子（のちの与謝野晶子）とは良きライバルとなり、増田雅子と3人で歌集「恋衣」を出版します。『わが息を芙蓉の風にたとへますな十三絃をひと息に切る』など熱い胸中を詠み、明治を代表する女流歌人になりましたが、結核を患い、明治42年4月、小浜で29歳の生涯を閉じました。



山川登美子記念館開館5周年を記念して上演された『『白百合の君』～山川登美子の生涯～』（昨年10月27日・文化会館）

■中川 淳庵

なかがわ じゅんなん

1739年～1786年



淳庵は、1739年に小浜藩医の子として江戸で生まれ、玄白より6歳年下になります。早くから蘭学に親しんでおり、「ターヘルアナトミア」を杉田玄白に紹介したのも淳庵です。翻訳作業では、杉田玄白や前野良沢とともに中心的な役割を果たしています。また、本草学（薬学・博物学）の第一人者で、江戸時代の発明家として平賀源内とも親交があり、いっしょに火浣布（石綿）を発明して当時の人々を驚かせたりしています。



今年5月、杉田玄白記念公立小浜病院西館横に開設予定の中川淳庵の功績を称える「中川淳庵顕彰薬草園」

■杉田 玄白

すぎた げんぱく

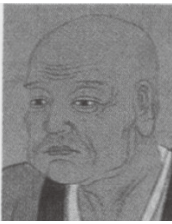
1733年～1817年



玄白は、1733年に江戸の小浜藩下屋敷で生まれ、8歳から13歳までの多感な少年時代を小浜で過ごしました。その後、江戸に戻り刑場で行われた人体解剖を見て、オランダの解剖書「ターヘルアナトミア」があまりに正確なのに驚き、中川淳庵や前野良沢らと、この解剖書の翻訳を決意。3年半もの苦勞の末1774年「解体新書」を刊行しました。玄白らの成し得たことは医学の発展だけにとどまらず、近代文化の発展に大きく貢献しました。



平成24年度に11回目を迎えた杉田玄白賞。杉田玄白の功績を称え、3つのテーマで進歩的な研究や取り組みを行っている人を表彰（昨年12月15日・杉田玄白記念公立小浜病院）



さ か い た だ かつ
藩主 **酒井忠勝**
(1587 年～ 1662 年)

1634 年に 11 万 3500 石で小浜藩主として小浜に入部。1637 年大老に就任し、4 代徳川家綱を補佐する幕府の重鎮として活躍します。1656 年隠居し、1660 年剃髪して空印と名乗ります。初代小浜藩主として小浜の町づくりの基礎を築き、小浜城を完成させます。



じょうこういん
藩主夫人 **常高院**
(1568 年～ 1633 年)

本名浅井初。浅井長政とお市の方の次女として生まれます。1587 年に京極高次と結婚。関ヶ原の戦いで功績をおさめ、小浜藩主となります。1609 年高次の死去とともに出家し栄昌尼と名乗ります。1630 年には槐堂和尚を招いて開山とし、常高寺を建立します。



やまぐちかしち
政治家 **山口嘉七**
(1857 年～ 1932 年)

1897 年県議員に初当選し、1908 年までの間、教育機関の拡充に尽力しました。1915 年衆議院議員に当選後、敦鶴鉄道促進建議案を提出し、1921 年に小浜線の全線開通を実現させました。1925 年には、国費をもって北川・南川の改修工事の功績をあげました。



※ここで紹介しているのは数多く存在する偉人のうち、ほんの一部の人たちです



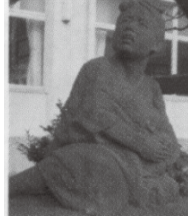
にしだとうひやく
川柳 **西田当百**
(1871 年～ 1944 年)

26 歳で大阪堺の染物業西田家の養子となり、35 歳から川柳を始めます。新川柳運動の中心となり、1909 年に関西川柳社を創立。1913 年には「番傘川柳社」に改名、柳誌『番傘』を発行し、柳壇の大御所と呼ばれました。川柳の雑誌「番傘」は、今も続刊されています。



にじょういんさぬき
歌人 **二条院讃岐**
(1141 年頃～ 1217 年頃)

讃岐は、平安末期・鎌倉前期を代表する歌人。1188 年に夫、藤原重頼が宮川地区の地頭職にあり、矢代・田烏・汲部の三か浦を支配していました。1235 年に刊行された史料に、「讃岐尼御前御領宮川保」とあることから、讃岐と若狭との深い関係が知られています。



つなじょ
善行 **綱女**
(1754 年～ 1769 年)

1769 年奉公先の主人松見茂太夫の幼児を子守り中、突然狂犬に襲われます。幼児を懷に抱きかかえ、身をもって守りましたが、自分は噛みつかれて約 20 日後に亡くなりました。綱女の功績は、尋常小学校の修身の教科書に載り、後世まで伝えられました。



とうじょうぎもん
国語学 **東条義門**
(1786 年～ 1843 年)

1807 年兄の実伝が亡くなり、妙玄寺の住職となります。本居宣長や春庭の国語研究に関心を持ち、詳細な文法の解明に努めました。著書「山口菜」では、動詞・形容詞・助動詞の活用語に大きな業績を残し、江戸時代随一の国語学者と言われました。

■佐久間 勉 艇長

さくま つとむ

1879 年～ 1910 年



艇長は、1879 年、若狭町北前川の宮司の子として生まれました。旧制小浜中学校で学んだあと、東京の海軍に入ります。明治 43 年 4 月 15 日、山口県新湊沖で日本最初の国産潜水艇の潜航訓練中に通風筒からの浸水という不慮の事故により、乗組員 13 人とともに 30 歳で亡くなりました。事故の折、死と直面した中で息絶える最後まで強い責任感で職務を全うした姿は驚きと感動を呼び、国内はもちろん世界中の人々から賞賛され、今日まで永く語り継がれています。

■梅田 雲浜

うめだ うんぴん

1815 年～ 1859 年



雲浜は、1815 年小浜藩士の子として小浜に生まれました。「順造館」で学び、29 歳で京都の有名な「望楠軒」という学問所の校長先生になり、子弟教育に務めますが、小浜藩や幕府の批判をしたため、藩を追放され浪人の身になります。それでも貧苦に負けず尊皇攘夷を掲げ、志士たちのリーダーとして活躍しました。安政 5 年「安政の大獄」で捕らえられ獄死しますが、雲浜らの行動は、幕藩体制を揺るがし、やがて迎える明治維新への大きな原動力となりました。

■伴 信友

ばん のぶとも

1773 年～ 1844 年



信友は、1773 年小浜藩士の子として小浜に生まれ、後に伴家の養子となり 15 歳で江戸に移り住みます。国学者である本居宣長の本を読み敬服し、やがて考証学を中心に神話や歴史、古典へと学問を進めて国学の研究に専念していきます。信友は、生涯に多くの研究成果を残しており、著書は百冊を越え、和歌は 2 千首にも上ります。「天保の四大家」として明治以降の古典、国史などの研究に大きな役割を果たしました。現在も多くの研究者が信友の学説をひきあいに出し、信友の研究が生きています。

短歌大会を開催し、登美子を顕彰！

短歌大会には全国からたくさん
の短歌が寄せられています。
昨年は、1599 首の応募がありました。歌会では、「宮中歌会始め」の選者となっている永田和宏・三枝昂之先生や日本歌壇で活躍されている安田純生・今野寿美先生が歌評され、参加した人たちは大変喜んでくれました。
今後郷土が生んだ登美子を小浜の宝として顕彰していきたいです。



毎年開催されている山川登美子記念短歌大会

山川登美子を顕彰するために、17 年前から、短歌大会を企画・開催している「登美子倶楽部しろゆりの会」。代表の玉井令子さんにお話を伺いました。



登美子倶楽部
しろゆりの会
代表 玉井令子さん
(広峰)



佐久間勉艇長を顕彰する式典。毎年命日の 4 月 15 に開催されている(小浜公園)



梅田雲浜を顕彰する吟詠大会。毎年 11 月に開催されている(文化会館)



伴信友の人物像を紹介したチラシ。歴史教育の一環として、高校や中学校に配布している

小浜の偉人を学び、 全国に発信してほしい

佐久間艇長は英雄。現代の人も見習ってほしい

小浜は小さい町ですが、全国に誇れる偉人がたくさんいます。佐久間艇長は山口県沖で潜航訓練中、船が故障し沈没して亡くなりました。息絶えるまで、職務を全うした偉大な人物です。彼の忠実な姿勢には、現代のわたしたちも見習うべき点がたくさんあります。普通なら我先にと



訪れた観光客に偉人の説明をする観光ボランティアガイド若狭の語り部（今年3月5日・空印寺）

自分の命を優先しますが、艇長は、天皇陛下の舟を沈めて申し訳ないという思いから、沈没の原因を遺書に書き記しました。どんな時代にあっても職務を忠実に遂行する艇長のような姿勢は見習うべきです。

梅田雲浜は献身的

雲浜は尊王攘夷運動に尽力した人物です。酒井家に受け入れてもらえず、安政の大獄で獄死しましたが、自分の家族を犠牲にしてまで国のために尽くした偉大な人です。わたしたちには到底受け入れられないかもしれないませんが、一つのことに、一生懸命取り組む雲浜のような姿勢が、今、必要なのではないのでしょうか。

東条義門は努力家

東条義門は江戸時代の国学者で、



観光ボランティアガイド
若狭の語り部
会長 宮川 健三さん
(77歳・栗田)

独学で国文法を学びました。西舞鶴に養子に行きましたが、妙玄寺を継ぐ予定だった兄が亡くなったため、小浜に戻り、22歳で住職となりました。彼は、昼夜問わず、勉強に励み、国文法の基礎を築きました。努力し、汗を流すことの大切さを教えた先覚者です。若い人にはぜひ知ってほしいですね。

今、伝えたいこと

これら多くの偉人を輩出したのは、江戸時代の藩主酒井氏が教育に尽力し、多くの優れた人材を輩出することができたからだと言われています。

昨今、郷土の偉人を学ぶ機会が少なくなってきました。若い人たちには、小浜の偉人をもっと知ってもらいたい、全国の人たちにどんどん発信していってほしいと思います。

再認識してもらい、小浜を好きになってもらうことが第一歩です。

親から子、子から孫へ

小浜には素晴らしい人がいたんだと親から子、子から孫へ伝えていくことが最も大切です。そのためには、まず、親の世代に偉人を知ってもらう必要があります。文化度が高くなるためには、文化的な背景や知識を持つ人を増やしていく必要があります。そういう思いで我々が取り組んでいるのが偉人顕彰です。「小浜市の歴史と文化を守る市民の会（以下、市民の会）」自身が学んで、それを広めていく、それが我々の責務だと感じています。

小浜を元気にしてほしい

偉人を始めとして、小浜の良さを



小浜市の歴史と文化を守る市民の会
会長 堂前 ひろしさん
(76歳・福谷)

知ること、郷土に誇りを持てるようになります。昨今、小浜を離れる若者が多いですが、小浜に誇りを持てるようになれば、市外へ出て小浜を応援してくれるし、戻ってきてもちまちづくりを頑張ってくれると思います。小浜を元気にできる人材を育てていくのが我々の願いであり、強い思いです。親から子、子から孫へ、うまく文化が伝承される循環を市民の人たちといっしょになって創っていききたいと思っています。

4月からHPを開設

市内外の人に、若狭の偉人や小浜の文化を広く知ってもらうために、4月から「市民の会」の専用ホームページ（HP）を開設します。偉人顕彰祭の案内や関連するイベントなどを紹介していきますので、ぜひご覧ください。



コラム

辞書なしで翻訳!?
玄白の執念が実を結ぶ

「ターヘルアナトミア」の翻訳は杉田玄白、中川淳庵、前野良沢の3人で行われましたが、3人とも語学力に乏しく、オランダ語をわずかに知っていた良沢を中心に翻訳が進められました。しかし、現在のように辞書や参考書がほとんど何もない状態でしただけで、一般の常識では考えられないほど無茶な行為でした。玄白らはまったく分からない文字には○に十文字を入れ、自信がない部分は推定で言葉を当てはめていきました。当時の日本にない言葉などもあり、その場合には新しい言葉をつくりました。今でいう「神経」や「軟骨」はそのときにつくられた言葉です。こうして玄白らは6〜7回翻訳会を開き、少しずつ訳ができたが、ついに、解体新書が完成しました。



解体新書

ご存知ですか？

玄白が養生した滝

84歳という長寿を全うした玄白でしたが、幼少期は病弱で、大谷区の小沢寺にある不動明王の滝で、よく養生したと言われています。小沢寺には現在も滝の岩壁を削り造られた小洞に、水不動と呼ばれる石の不動明王が安置されています。



小沢寺にある不動明王

今すぐ実践！

- 【杉田玄白 養老7不可】
- 1 昨日の非は後悔すべからず
(きのうの失敗は後悔しない)
 - 2 明日の是非は慮念すべからず
(あしたのことは心配しない)
 - 3 飲と食とは度を過さずべからず
(食べるのも飲むのも度を過ぎない)
 - 4 正物に非ざれば、苟も食すべからず
(変わった食べ物は食べない)
 - 5 事なき時は薬を服すべからず
(何でもないのにむやみに薬を飲まない)
 - 6 壮実を頼んで、房をすごすべからず
(元気がたかろうとして無理をしない)
 - 7 動作を勤めて、安を好むべからず
(案をせず、適当に運動を)